

若い芽のポエム 入賞者決まる



昨年の贈呈式

「第12回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が行われ、2万2、144編の応募の中から入賞作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の3部門で最優秀賞の美棹賞を受賞した作品と入賞者を紹介。なお、賞の贈呈式と朗読会は、11月8日(土)に前橋テルサで行います。

の入賞者は次のとおりです。

—敬称略—

- 小学生の部
美棹賞(金賞) 高橋洸(群馬大附属小5年)
銀賞 須永千晴(粕川小6年)
銅賞 野澤かれん(駒形小6年)

- 佳作 2人
入選 4人
- 学校賞
学校全体としての取り組みをたたえ、設定した「学校賞」。今回は市内の15校、市外の9校が受賞しました。
- 小学校 桃井小、城南小、朝倉小、下川淵小、荒牧小、大室小、大胡小、粕川小、月田小、中之条町立中之条小
- 中学校 三中、五中、六中、荒砥中、宮城中、伊勢崎二中、栃木県小山第三中、バンコク日本人学校、ジャカルタ日本人学校
- 高校 市立前橋高、高崎健康福祉大高崎高、高崎商科大附属高、渋川工業高、東京大附属中等教育学校

■ 秋委委員長の講評(要旨)

今年も全国の小学生・中学生・高校生からたくさん詩が寄せられました。選考は、委員それぞれがどの県か、どの学校かということは分からない状態で行いました。一つ一つの作品を読みますと、次の時代を担うみなさんのものの方、考え方が伝わってきます。詩を書くというのには、自らの生きている証です。人生において若い季節を生きている皆さんの作品には、一人一人が自分の人生を一生懸命生きている形が表現されて

います。短い作品の中にも人間社会をしつかりと見つめる目や批評が表現されています。また、皆さんの作品には、自分自身の体験や心がこもっています。いろいろなことを体験して目に映ったもの、観察したもの、感じたものが巧みに表現されています。小学生、中学生、高校生ともに質が高くなっているのを感じます。

問い合わせは
文化国際課 4868-5825

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は全国の小学生から高校生を対象にした詩のコンクール。12回目の本年度は応募数が昨年度と比べると2,000編以上も増加。また、海外3カ国(タイ、インドネシア、アラブ首長国連邦)からも応募があり、全体的な作品のレベルもさらに向上しました。入賞作品の選考に当たり、まず、推薦委員の予備選考で推薦作品を決定。その後、選考委員の本選考で入賞作品を決定しました。

- 中学生の部
美棹賞(金賞) 福田晟史(三中3年)
銀賞 吉野真生子(ジャカルタ日本人学校3年)
銅賞 千代さつき(五中2年)
- 佳作 7人
入選 21人
- 高校生の部
美棹賞(金賞) 高橋裕子(前女高1年)
銀賞 安藤輝(東京大附属中等教育学校4年)
銅賞 鷲巣遥太(高崎商科大附属高1年)



小学生の部
高橋 洸さん
群馬大附属小5年

夕立ち

ピチンパチン ピチンパチン
屋根に雨つぶが当たってきた
ピチンパチン ピチンパチン
ガシャガシャガシャ ザーザーザー
あーあ、だんだん強くなってきた
土ほこりのまい上がるにおい
雨と暑い空気が交じり合ったにおいだ
雨つぶは 柿の葉をゆらしている
大きな強い雨つぶたちが地面をたたき
どろがとびはね
そして、とび散っていく
グラジオラスがたおれてる
ひまわりの花は下を向いちゃった
あつ鳥が来た
雨やどりにきたんだ
上に行ったり下に来たり
居心地のいい所をさがしているみたい
ピチャン ピチャン ピチャン
ポタン ポタン ポタン
窓の外が白く輝いてきた
木の葉がおどりだし
どこかで鳥が鳴いている
薄日が差してきたんだ
空が水色になってきたぞ
太陽 照りつけてくれないか
泳ぎに行きたいんだ



中学生の部
福田 晟史さん
三中3年

やぶと雨

紫陽花の咲く頃
僕は荷物ターミナルに集められた
桜のつぼみがふくらむ頃
最後の仕事を終えた
誰に見送られることもなく
ある人気機関車のように
花束を乗せて ヘッドマークをつけて
大勢に見守られて
ラストランを走ることもなく
不調のまま 放っておかれた
僕は若い頃 日本の大動脈を走り抜けた
ある時は さくらのヘッドマークをつけて
ある時は はやぶさのヘッドマークをつけて
富士 みずほ あさかぜ 瀬戸 出雲
遠い遠い日々
僕は長く重い貨車をひいて
日本の半分を走り回った
峠を上り 峠を下り
長く遠い道のりだった
僕らのいる所はいつくるかもしれない
明日を待つ所
解体される機関車の保留場所
今日も静かに雨が降りそそぐ



高校生の部
高橋 裕子さん
前女高1年

突風と稲妻の日々

風の強い日
雲のたなびくあの空が
永遠に変わり続けていくように
見えない所で
とてつもないスピードで
世界が変わっていくんだ
こうしてめまぐるしい毎日を
突風のごとく駆け抜けている
駆け抜ける
駆け抜ける
駆け抜ける
一思いに
頭に来ることがあって一日が過ぎ
悲しいことがあって一ヶ月が過ぎ
辛いことがあって一年が過ぎ
もうだめかと絶望しかけて
でもぐずつく暇もなかった
一筋の稲妻が夜空を貫いて
そして私は新たな世界の中へ
躊躇などしない
時は霧を裂く光
もし立ち止まってしまったら
何もできやしない
だから進まなくっちゃ
小さな本のページを繰るように
日々は過ぎ去ってしまうから
こうして私はめまぐるしい毎日を
突風のごとく駆け抜けている
駆け抜ける
駆け抜ける
駆け抜ける
夢を掴もう

各部門の美棹賞